

## 現代経済事情Ⅱ

### 日本の中小企業とアジア経済

高田好章

#### ○電子部品産業の海外生産を考える

エレクトロニクス産業は日本の産業のなかで最も海外展開が進んだ分野

1980年以後海外生産比率を急テンポで上昇、海外生産と国内生産を一体化した生産体制を構築

進出先：1980年代半ばにNIESからASEAN4に、1990年代にASEAN4から中国へ移動

1979年まで：輸入代替と労働集約型製品、台湾、韓国、フィリッピン、マレーシア、輸出加工区

1980～85年：貿易摩擦で迂回輸出、シンガポール等NIESで米国向けカラーTV生産

1986～90年：円高で、投資が増加、NIESからASEAN4に。「世界の工場」としてのアジアの原型が形成される。

1991～95年：中国の台頭、対NIES投資シェアの低下と、対中国投資の急増

国内エレクトロニクス産業の構造変化：海外生産比率 1985年の7.4%、95年の16.8%に  
家電の海外生産での国内生産の縮小：カラーTV、VTR

サプライヤーの構造：完成品メーカーへの供給、購入品：市販品、外注品：特注品、汎用性なし

中小規模のサプライヤー：外注品メーカーとして活動、

電気産業のアジア進出に占める中小企業の比率は2割弱

サプライヤーの海外進出：セットメーカーへの追随。要請がなくても、現地市場の将来性をみて。

国内で取引がなくても、顧客への食い込み。複数拠点を持つ：市場立地で、一定規模の需要が見込まれる市場に進出。7割以上の企業で、海外の雇用数が国内の雇用数を上回る。

アジア域内貿易の発達：産業内での調達、現地生産への設計・試作対応

サプライヤーの問題点：

技術・技能面の基盤は国内にある。

経営資源をどう配分するか、生産を海外に集約して、国内は非製造機能に特化  
外注品メーカーでは技能水準の向上には生産現場から切り離せない。

国内に技術基盤を残すためには、ある程度の生産活動を行っていることが必要

最近の動き：中国への生産移管・投資急増、アジア展開

新しい取り組み：国内生産回帰、アナログ回帰、液晶テレビ、デジタル素材、

#### ○今週の元気企業： ナカン 液晶配向膜印刷技術 特殊印刷機製造

#### ○ビデオ鑑賞

ガイアの夜明け さらば親会社 ～工場独立への挑戦～ TV東京2004年8月10日

#### 参考文献

さくら総合研究所環太平洋研究センター『アジアの経済発展と中小企業』日本評論社1999年

---

質問・意見等は、高田のE-mail: ytakada@komazawa.com まで。

講義レジュメ、講義スライドの掲載ホームページ: <http://user.komazawa.com/~ytakada/kougi/>